

2. 農業関係実証実験

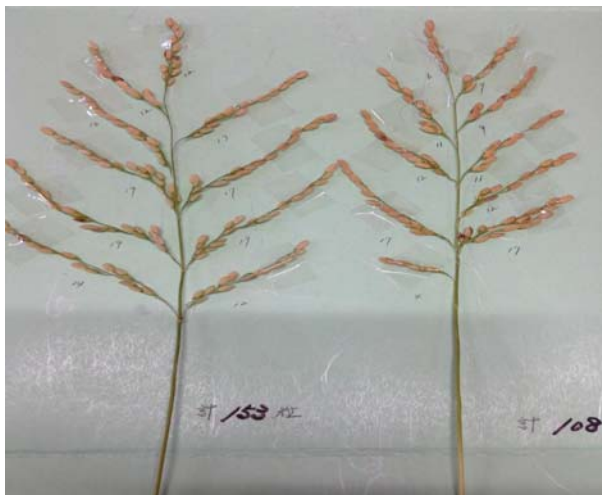
(1) 稲 作

田植えシーズン到来！

またまたやって来ました、田植えのシーズン！
田んぼに『ZEROのちから』を入れてみませんか！？
田植え後に、20L/反を流し込むだけの手間いらずです。
年に1度のチャンスです！

そこで、平成25年産コシヒカリの実例を2件ご報告！

- ① 豊岡市Tさんの田んぼ（2反）に、ZEROのちから加工処理水40Lを投入。
左の写真がその稲穂です。
153粒、対 108粒、単純に41.6%増収したことになります。
- ② 養父市Yさんの稲刈りでは、籾袋が足りなくなったとか。
前年28袋だったものが、38袋とれたとのこと。（35.7%増収。）
Yさん曰く、米にしたら1.5倍になった！
今年は水を1.5倍入れるから収穫も1.5倍になる？



期待する効果：活着が良くなる。病害虫の抑制。倒伏に強くなる。増収が期待できる。

※代掻き時に20/反を散布しながら耕耘を行い、田植え後水口から20ℓ/反流し込むと田圃の地温が1℃から約1.5℃上がります。

無農薬、無肥料を実践して9年目の比較写真です。

左：化学肥料、農薬あり。

右：全く何もせず。

上は田植え後、約1ヶ月強（7/2）の写真。

下は稲刈り前（9/12）の写真。

肥料の窒素、リン酸、カリなんて不要なんです！

これすら知らない学者、農学博士が多すぎるんです。

地球の大気の大部分が窒素であること、植物が本来の働きをすれば、大気中の窒素を吸収するんです。

理由は、上の写真の左を見れば分かります。

毒々しい緑が象徴しています。

それに引きかえ右は、弱々しい黄緑。

さて、どちらが自然で、安心安全でしょうか？

雑草の色と比較しても明らかに分かりますよね？

いわゆる過保護が原因で、必要ない窒素を肥料として与えるから、根を伸ばす必要もなくどんどん茎が成長しますが、この濃い緑は明らかに窒素過多です。

逆に右は、この時期、せっせせっせと根を作っています。

そうすることで、あっと言う間に逆転現象が起きます。

9/12、下の写真の状態になり、まるで、ウサギとカメのような光景が。

ですから、窒素、リン酸、カリしか語れない農学博士よりも、大自然の方がはるかにレベルの高い先生だと思っています。



